

岐阜県農業技術センターニュース No.56

黄色系フランネルフラワーの2品種を新たに育成(花き部)

フランネルフラワーは、オーストラリア原産のセリ科の多年草です。白い花で花弁のように見える総苞片(そうほうへん)が毛織物のフランネルと同じ触感であることから名付けられました。

元々は草丈が高く、切花として利用されていたものから、新たに鉢花でも利用できる品種の開発を目指して育種に取り組み、世界に先駆けて鉢花用の品種や有色の品種を育成しています。これまでに切花用3品種、鉢花用3品種を育成し、全国シェア95%以上の生産を誇っています。

今回、これまで1品種しかなかった黄色系品種のバリエーションを広げるべく、2つの黄色品種を育成しました。「ハニーホイップ」は花色がクリーム色で、中輪多花となります。「ハニーマスカット」は花色が緑色・黄色・クリーム色のグラデーションで、小輪多花となります。いずれも下葉の枯れが少なく作り易い品種で、3~5月のマーケット拡大に貢献できます。



「ハニーホイップ」

中輪の花が多数咲き、ボリューム感に優れる



「ハニーマスカット」

緑→クリームグラデが美しく、コンパクトな草姿

令和5年度 農業技術センター研究成果発表会を開催！

当センターと岐阜大学応用生物科学部との共催で、令和5年度の試験研究成果発表会を令和6年2月19日に講堂で開催しました。岐阜大学からの2課題を含め、全9課題の成果を発表しました。また、別の会場では成果の実物展示とポスターによる発表も行いました。

本年度は4年ぶりとなる対面での開催となったことから、各地域の生産者、JA・市町・農業普及課職員など約100名の参加があり、成果の活用や普及段階での課題、試験への要望等について多数の意見をいただきました。成果の普及については関係機関と連携・協力しながら迅速に行うとともに、いただいた意見を参考に研究開発や技術支援を進めてまいります。



所長挨拶



検討会の発表・討議



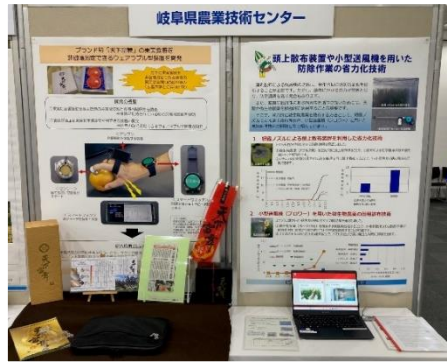
パネル展示(別室)

アグリビジネス創出フェアin東海

令和5年12月7～8日に農林水産省とNPO法人東海地域生物系先端技術研究会が主催するアグリビジネス創出フェアin東海が開催され、この中で東海4県の試験研究機関が連携してアウトリーチ活動をするシンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは「スマート育種」をテーマに各県の取組み状況や成果についての講演が行われました。当センターからは「カキ育種の現状と岐阜県で実施している効率的な取組み」について果樹・農産物利用部の長谷川研究員が発表しました。

展示は、企業、大学、公設試など36機関・43ブースの展示が行われ、250名が参加する中で、当センターからは、ブランド柿「天下富舞」の果実食感を非破壊測定できるウェアラブル型装置の開発、頭上散布装置や小型送風機を用いた防除作業の省力化技術に関する展示を行いました。



ウェアブル端末・防除装置の展示



「カキ育種の取組み」発表

SAARC加盟国訪日団の皆さんが来所！

日本政府の国際交流事業の一環として、南アジア地域協力連合（SAARC）諸国のバングラデッシュ、インド、ブータン、パキスタン、モルジブ、ネパール、スリランカの学生や若手社会人が農業をテーマに日本への理解を深めるため来日しており、25名の皆さんが当センターを見学されました。

初めに当センターの概要を説明した他、柿の非破壊によるサクサク感測定装置のデモンストレーションや先端的な環境制御による花の育種施設やイチゴの栽培施設等を視察されました。

視察・質疑
応答の様子



人事異動（令和6年4月1日付）

よろしくお願ひします。

転入者	新所属	旧所属	転出者	新所属	旧所属
石垣 要吾	所長	水産試験場	宮田 和也	農産園芸課	所長
小枝 里栄	総務課長	生活衛生課兼業務水道課	野島 志信	行政管理課	総務課長
上原 孝悌	総務課主事	図書館	堀井 依里	労働雇用課	総務課主事
山田 隆史	作物部主任専門研究員	西濃農林事務所	野田 佳宏	農政課	主任研究員
林 秀輔	果樹・農産物利用部専門研究員	飛騨農林事務所	柳生 崇紀	農業経営課	果樹・農産物利用部専門研究員
浅野 健太	果樹・農産物利用部研究員	新規採用	長谷川 巧	岐阜農林事務所	果樹・農産物利用部研究員
林 知宏	野菜部主任研究員	飛騨農林事務所	杉山 愛	退職	野菜部研究員
			宮崎 暁喜	農産物流通課	病理昆虫部専門研究員